

基本展示室と複数のテーマ展示室が連動して、さまざまな三重を発信する

基本展示室と可変的な複数のテーマ展示室で構成する展示エリアでは、三重の魅力を概観する基本展示と複数のテーマによる大小さまざまな展示などを複合的に展開し、それらが連動することで、三重の多様で豊かな自然と歴史・文化を多角的に紹介し、発信します。

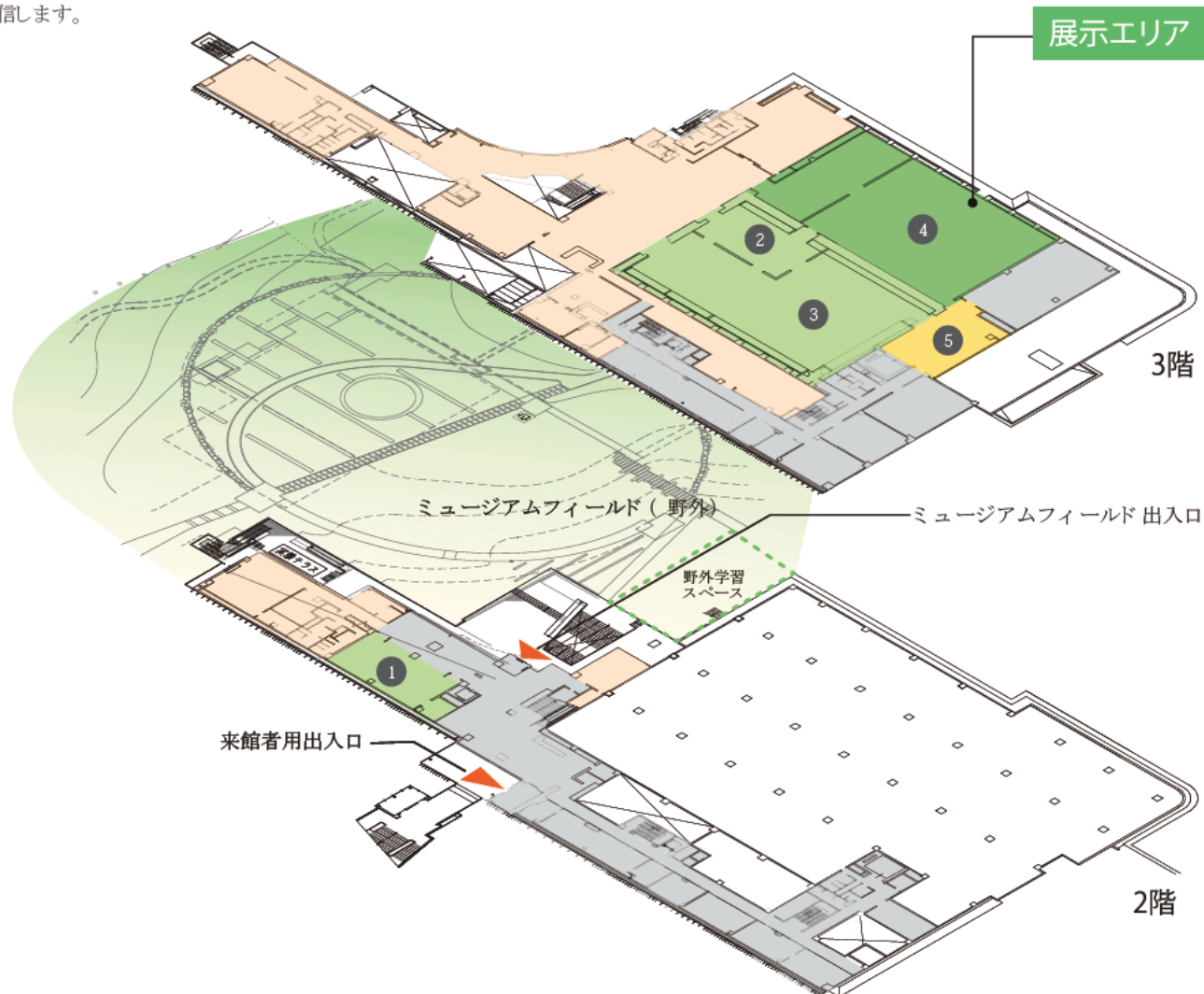
テーマ展示室 P.16,24-26)

展示の内容・規模に対応する3つの可変的で柔軟な利用ができる展示室によって、全国規模の展示から小さな展示まで、また館の自主企画から、県民・利用者のみなさんとの協創による展示まで、さまざまな展示を組み合わせ、更新することで、三重の魅力を多角的に伝えます。

① 交流テーマ展示室1

② 交流テーマ展示室2

③ 企画テーマ展示室



④ 基本展示室 P.16-23)

三重の特色である自然と歴史・文化の「多様性」やその魅力をわかりやすく紹介し「三重ってすごいところ!」を発信します。一つの空間で展示することで、豊かな自然の中で人・モノ・文化や暮らしが育まれた三重を総合的に表現します。美しさ、ダイナミックさなど、体感的に伝える展示で来館者をひきつけ、さらにより詳しい情報へと興味・関心を深める展示とします。

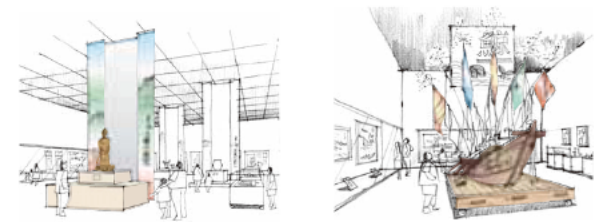
⑤ 展示準備作業室

訪れるたび、新しい視点や角度で見ることができる展示

「基本展示」では、三重の多様で豊かな自然が、多様で豊かな歴史と文化を生み出し育んできたことを、一つの空間で一体的に紹介します。さらに基本展示で紹介する内容を補完したり、より発展した内容とするやや小規模のトピック展示や規模の大きな自主企画展、全国的な規模で行う全国巡回展などの「テーマ展示」とを組み合わせることで、訪れるたび、新しい発見のある展示となります。

基本展示は、展示ストーリーに沿った基本動線を設けますが、見学者一人ひとりが、それぞれの興味や関心に応じたさまざまな見方ができる自由な動線も用意しています。

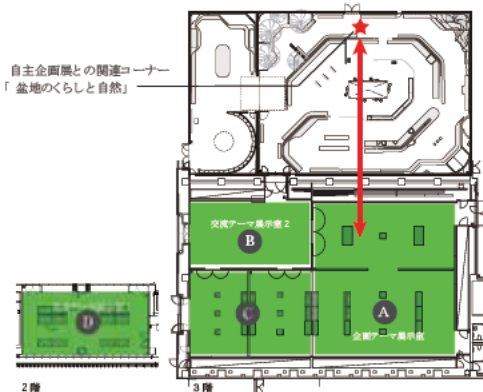
テーマ展示の展開は、三重の豊かな自然と歴史・文化について、四季にちなんだ展示展開や分野別、地域別などさまざまな切り口で、自然系、人文系、あるいはそれらを総合的な視点でとらえた総合系展示として展開します。



展開例1

3階テーマ展示室を3つに分けた展開例
=4種類の展示を開催

「盆地のくらしと自然～伊賀盆地～」のコーナーと連動し、伊賀の歴史的な事柄について、より深く紹介する自主企画展

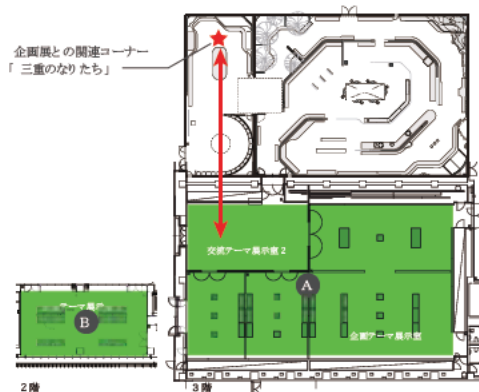


- A 自主企画展
歴史展示 伊賀の歴史を探る～筒井定次と伊賀上野～
- B トピック展示
自然系展示 生きものの不思議～旅をするゾウ～
- C 県民協創交流展
県民・利用者のみなさんとの協働による調査研究成果の発表展示 三重の軽便鉄道を探る
- D 交流テーマ展示室1
他機関との連携展 みんながつくった標本展
(学校と連携して、夏休みの自由研究の成果を発表する展示)

展開例2

2階・3階テーマ展示室全部を使って
大規模な企画展を開催

「三重の大地のなりたち」コーナーと連動した、全国規模の企画展

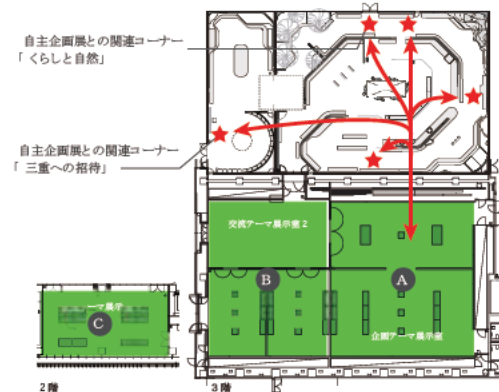


- A 企画展
自然系展示 よみがえる太古の生きものたち
～大型恐竜・パリオウの世界～
- B 企画展と連携したトピック展示
「トパリュウが見つかるまで～発掘調査パネル展～」

展開例3

3階テーマ展示室を2つに分けた展開例
=3種類の展示を開催

三重への招待～くらしと自然コーナーと連動し、明治時代の三重のすがたについて、歴史的公文書などにより紹介する企画展

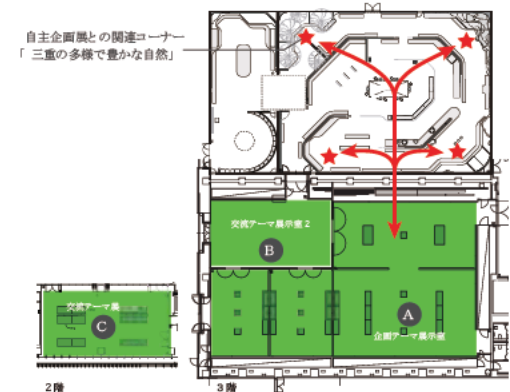


- A 自主企画展
歴史的公文書展示
「絵図・地図からみる明治時代の三重のすがた～」
- B トピック展示
総合系展示
「100年前の三重～写真で見る三重の自然とくらし～」
- C 2階交流テーマ展示室1
他機関との連携展 防災三重～活断層から探る～
(県の施策と連携した展示)

展開例4

3階テーマ展示室を2つに分けた展開例
=3種類の展示を開催

三重の多様で豊かな自然コーナーと連動し、生態系サービスについて、紹介する企画展



- A 自主企画展
「自然からのめぐみ～生態系サービスを考える～」
- B トピック展示
総合系展示 ウシ・牛・丑年 干支シリーズ」
- C 2階交流テーマ展示室1
県民協創交流展 三重の干潟の今昔
～干潟から環境を考える～
(県民・利用者のみなさんとの協働による調査研究成果の展示)【基本展示 伊勢湾の自然コーナーとの関連展示】

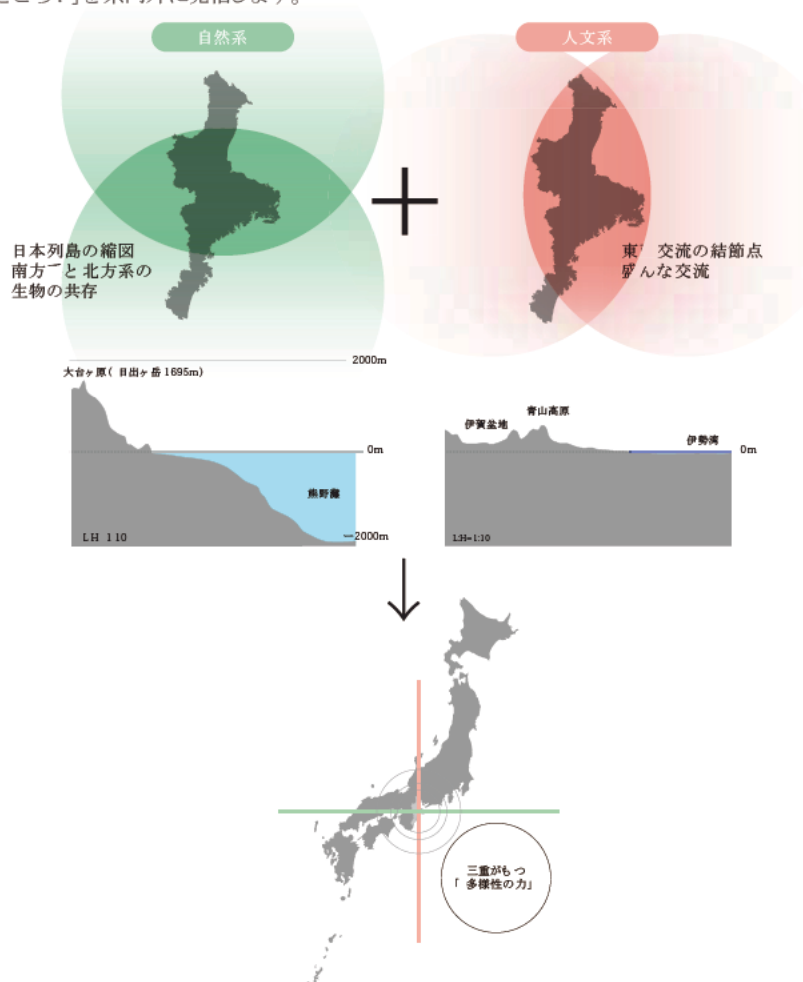
基本展示室の考え方

■基本的な考え方

多様で豊かな自然は、多様で豊かな歴史と文化を生み出し、育んできた

日本列島のほぼ中央に位置する三重は、南北に長く、-2,000mの深海から標高1,700mもの山岳を含むさまざまな自然環境に囲まれた、まさに日本列島の縮図といえる多様で豊かな自然を有しています。その自然を背景に、三重では、特色ある地域文化と、活発な人やモノの交流が共存する独特の風土が育まれました。海と山の文化が出会う場所となり、そして古くからの交通の要衝として栄え、東西文化の結節点となったのです。

こうした三重の特色である自然と歴史・文化の「多様性」やその魅力をわかりやすく紹介し「三重ってすごいところ！」を県内外に発信します。

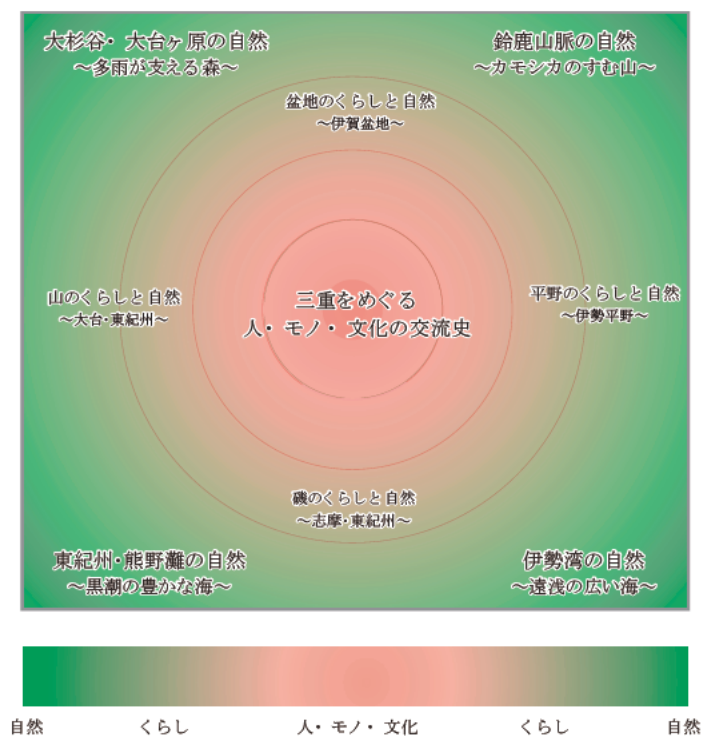


■ゾーニングの考え方

自然の中で人・モノ・文化が育まれた三重を、一つの空間で展開

基本展示室は、大杉谷・大台ヶ原、鈴鹿山脈、伊勢湾、熊野灘に代表される三重の代表的な自然環境を四隅に配置し、その中で育まれた人・モノ・文化の交流とその歴史を中央で展開します。また、盆地、平野、磯、山の4つの視点から人の暮らしと自然の関わりを総合的に考えるコーナーを、それらの間に配置します。これらを大きな空間で一体的に紹介することで、三重の自然と歴史・文化を総合的に伝え、表現します。

■基本展示室ゾーニングコンセプト



展示テーマの構成

基本展示室

大テーマ

1 三重への招待～三重はこんなところ～

三重の特色である自然と歴史・文化の多様性の魅力を感じ紹介するとともに、三重県の成り立ちや三重県の今の姿を示す。

2 三重の大地のなりたち

現在の日本列島や、三重の山や海が46億年の地球史の中でどのように形成されてきたかを紹介。

3 三重の多様で豊かな自然

鈴鹿や大台の山々、伊勢湾、熊野灘に育まれた三重の多様で豊かな自然を紹介。

4 暮らしと自然～多様な自然との共存～

平野、盆地、磯、山の4つの地域に焦点をあて、それぞれの地域における人の暮らしと自然の関わりを総合的に考える。

5 三重をめぐる人・モノ・文化の交流史

東西交流の結節点として、活発で盛んな交流が生み出された三重の歴史と文化を、人・モノ・文化の交流の視点から紹介。

6 エピローグ

三重の特色である自然と歴史・文化の多様性の魅力を再確認し、三重が持つ「多様性の力」の探究へと誘う。

中テーマ

2-1 日本列島の骨組み

2-2 熱帯の海があったころ

2-3 三重のゾウ

2-4 三重の凸凹

3-1 大杉谷・大台ヶ原の自然～多雨が支える森～

3-2 鈴鹿山脈の自然～カモシカのすむ山～

3-3 伊勢湾の自然～遠浅の広い海～

3-4 東紀州 熊野灘の自然～黒潮の豊かな海～

4-1 山の暮らしと自然～大台 東紀州～

4-2 盆地の暮らしと自然～伊賀盆地～

4-3 平野の暮らしと自然～伊勢平野～

4-4 磯の暮らしと自然～志摩・東紀州～

5-1 東西交流の背景

5-2 東西交流のさまざまな姿～海を越えて～

5-3 東西交流のさまざまな姿～陸路をゆく～

5-4 交流のかたち～人の交流 信仰をめぐる人々～

5-5 交流のかたち～モノの交流 流通の発展～

5-6 交流のかたち～文化の交流 知をめぐる交流～

小テーマ

1-0-1 多様で豊かな三重の自然と歴史・文化

1-0-2 三重県の成立

1-0-3 三重県の今の姿

2-1-1 寄せ木細工の三重の大地

2-1-2 日本の大断層 中央構造線

2-1-3 恐竜化石 バリウ

2-2-1 一志の海

2-2-2 三重にもあった火山

2-3-1 ミエゾウとアケボノゾウ

2-3-2 ゾウがいたころの三重

2-4-1 山のすがた

2-4-2 海のすがた

2-4-3 平地のすがた

2-4-4 今も動く土地

3-1-1 多様な原生林

3-1-2 多雨が生み出した自然

3-1-3 特徴ある動植物分布

3-2-1 雪と生きもの

3-2-2 鈴鹿の山をつくる花崗岩と石灰岩

3-2-3 渓谷の生きものたち

3-3-1 遠浅の海辺

3-3-2 湾内の生きものをつなぐ

3-3-3 自然と人がつくる海岸線

3-4-1 黒潮が運ぶ生きもの

3-4-2 黒潮がつくる暖かな沿岸

3-4-3 熊野灘の深い海

4-1-1 大台 東紀州地域の林業と自然

4-1-2 棚田～山で米を作る～

4-2-1 伊賀の里山のなりたち

4-2-2 里山のひとと生きもの

4-3-1 川が育んだ平野のなりたち

4-3-2 河畔に残る小河川

4-3-3 水田と水路のつながり

4-4-1 里海の自然と人の関わり

4-4-2 海のまつりといのり

5-1-1 多様な交流の歴史

5-1-2 文化をつなぐ道

5-2-1 北と南をつなぐ道(近代)

5-2-2 熊野灘を行く(近世)

5-2-3 大海への展開(近世・近代)

5-2-4 東との交流(中世)

5-2-5 伊勢湾の湾～内湾～(中世～近世)

5-3-1 都に直結する古代の三重(古代)

5-3-2 鈴鹿越えの商人たち(古代～中世・主に中世)

5-3-3 熊野へ向かう人々(中世～近世)

5-3-4 近世の東海道とさまざまな街道(近世)

5-3-5 西との河川交通(近世)

5-4-1 参官の賑わい(全時代)

5-4-2 御師(近世)

5-4-3 信仰から観光へ(近世～近代)

5-5-1 伊勢商人(近世)

5-5-2 名物から特産へ(近世～現代)

5-6-1 知のネットワーク

細目

動いてるプレート／南からやってきた枕状溶岩や石灰岩・チャート／付加体でできた三重／付加体が温度や圧力で変成された岩石／マグマが固まった花崗岩／マントルからやってきたかんらん岩

中央構造線は断層／中央構造線で分けられる岩石／中央構造線のでき方

トリュウの発掘／トリュウとそのなま／南からきたトリュウ

一志層群のたい積／化石が語る海の世界

熊野の石と室生の石／三重の若い花崗岩

三重にいたミエゾウ／島で進化したアケボノゾウ

東海層群と古琵琶湖層群／ゾウがいたころの気候

逆断層でできた鈴鹿山脈／高くなる紀伊山地／布引の青山高原

太平洋とつながった伊勢湾／海盆が広がる熊野灘

粘土層が広がる伊賀盆地／起伏の多い伊勢平野／水田が広がる沖積平野

プレート沈み込み帯と地震／活断層と地震

原生林のなりたち／常緑樹林の生きもの／落葉樹林の生きもの／針葉樹林の生きものたち

1日1000mmの雨／大杉谷のくひ(嵐)と滝／雨が支える山の植物

歴史を語る植物／隔てられた生きもの／大台山系特有の生きもの

カモシカ／多雪と植物分布／北の生きもの

鈴鹿山脈の地形・地質／花崗岩地帯の自然／石灰岩地帯の自然／花の名山の藤原岳

溪流をつくる森／溪流の動物

伊勢湾のすがた／海とつながる河口／潮の干満／豊穣な干潟／砂浜に生きる／海岸の四季の鳥

スナメリが育まれる生きものをつなぐ

伊勢湾の海岸線の今昔(ラグーンと湊)

流れる黒潮／黒潮が南から運ぶモノ／海が運ぶ植物の種

リアス式海岸／小石の浜～七里御浜～／暖かさがつくる森

海の底の山と谷／マッコウクジラの生態／深い海の生きもの

林業の発展／山の道具／明日の林業と文化的景観

水を配る／棚田の継承

里山の自然と暮らし(伊賀市諏訪の里山と民俗)／ため池に親身自然

越川と河畔林／越川の水生生物

薬場が育む豊かな海／志摩半島沿岸地域の漁撈／潜水漁業と資源管理

木津川水運の開発

伊勢信仰／おかげ参り

御師とは／饗応のかたち／御師の屋敷／御師を支えたもの(市場の賑わい)

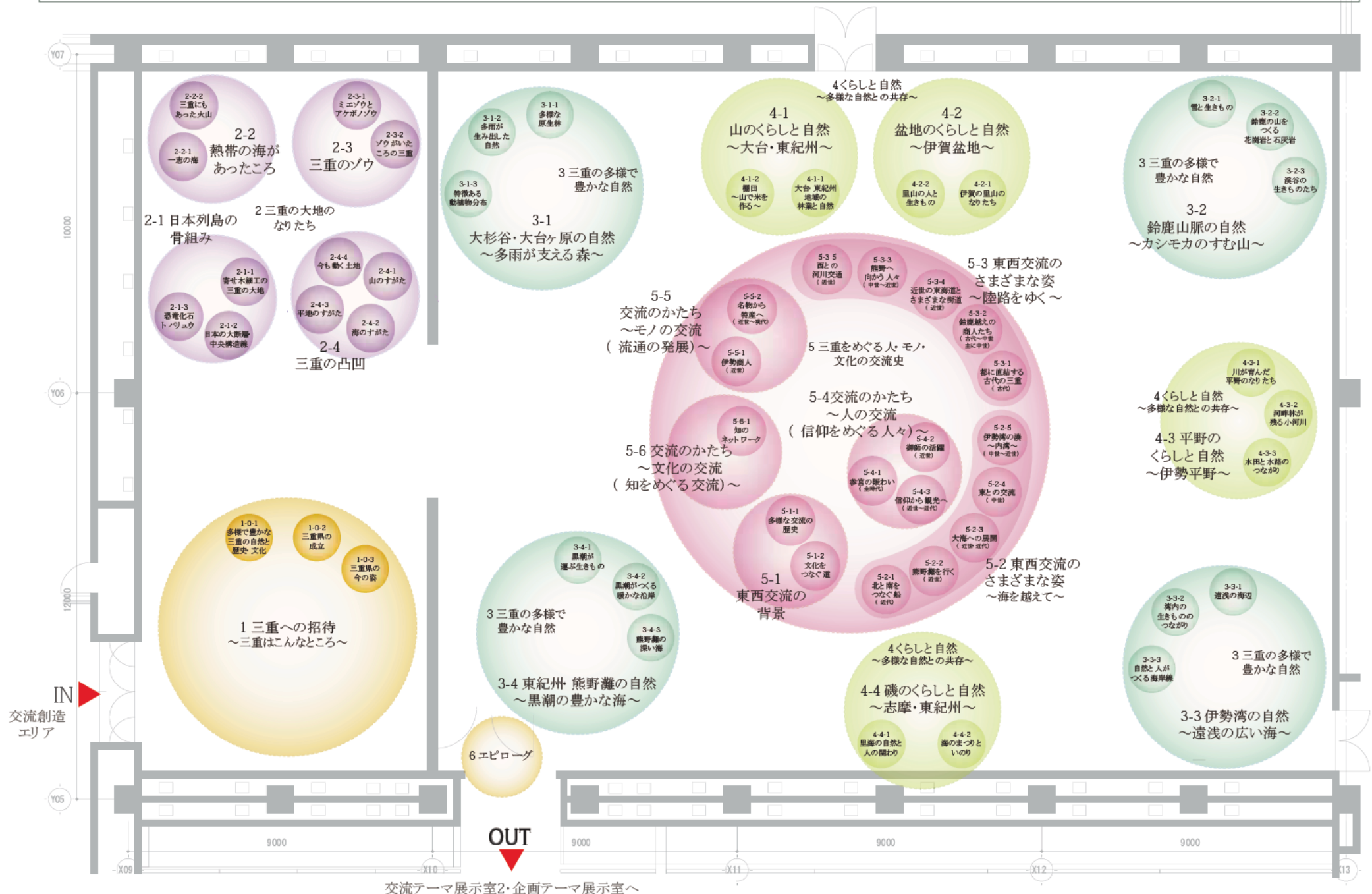
旅といえど伊勢さん／参宮と名所巡り／鉄道と伊勢志摩観光

伊勢木綿の道／本家と江戸店のしくみ／伊勢商人は遊びおこし／その後の伊勢商人

親しまれた三重の名物／現代に継承された特産品

知のネットワークを支えた風土(中世～近世・主に近世)

ネットワークを構成する人々(中世～近代)



■展示ストーリー

1. 三重への招待～三重はこんなところ～

日本列島のほぼ中央に位置する三重は南北に長く、-2,000mの深海から標高1,700mもの山岳を含んだ多様な自然環境に囲まれています。多様で豊かな自然は、まさに日本列島の縮図といえるもので、その自然を背景に、独自性の強い地域文化と、活発な人やモノの交流が共存する独特の風土が育まれました。三重は海と山の文化が会合場所となり、そして古くからの交通の要衝として栄え、東西文化の結節点となりました。ここでは、基本展示の導入として、こうした三重の特色である自然・歴史・文化の多様性の魅力と力を感覚的に紹介するとともに、現在の私たちが住む三重県の姿を示します。

2. 三重の大地のなりたち

現在の日本列島や三重の山や海が46億年の地球史の中でどのように形成されてきたかを、プレート の動きを根拠にすえて紹介します。また、日本列島の地質的な事からを中心に地球史を紹介します。

3. 三重の多様で豊かな自然

三重には、大杉谷・大台ヶ原や鈴鹿山脈などの山々、日本で最大級の面積を持つ内湾である伊勢湾や黒潮がもたらす豊かな海である熊野灘など、豊かな自然環境に育まれています。これらの多様で豊かな自然を地理的な配置により紹介します。

4. 暮らしと自然～多様な自然との共存～

三重には、山地、丘陵、平野、盆地、礫、砂浜など実にさまざまな地形が展開しています。人々は、主に、平野や盆地、海浜や山あいに住居し、それぞれの地域の豊かな自然の中で、特色ある暮らしが育まれてきました。ここでは、人々の暮らしの舞台となっている大台・東紀州の山、伊賀盆地、伊勢平野、志摩・東紀州の礫の4つの地域、特徴に焦点をあて、それぞれの地域における人と自然の関わりについて考えます。

5. 三重をめぐる人・モノ・文化の交流史

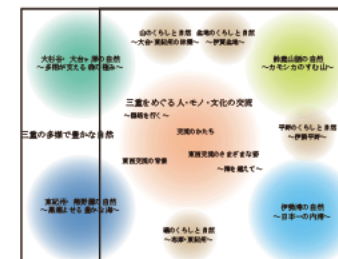
三重は紀伊半島東部に位置し、東は伊勢湾・熊野灘に開いています。陸路は山を越えてこの地に集まり、海はハイウェイとなって東国への窓口となっています。東西交流の結節点であり、また、伊勢神宮が鎮まり、熊野三山とも結ばれ、活発で盛んな交流が生み出された三重の歴史と文化を、人・モノ・文化の交流の視点から紹介します。

6. エピローグ

基本展示の最終となるエピローグは、三重の特色である自然と歴史・文化の多様性の魅力を凝縮して紹介した基本展示室から、テーマ展示室、学習交流スペースの諸室、あるいは館外の日常空間への導入経路と位置づけられます。ここでは、来館者の感想やメッセージを受け付けて掲示したり、今の三重が分かること、そして、未来に向けてのメッセージなどを示すことにより、三重の魅力を再確認しつつ、来館者を三重の「多様性の力」の探求へと誘います。

■展示室の特徴

- 「三重の多様で豊かな4つの自然」を背景に、それぞれの地域で育まれてきた「暮らし」「人・モノ・文化の交流史」を一つの空間の中で展開し、借景という視覚的效果により、人と自然の関わりを総合的に伝える展示構成としています。これらにより、自然の中で三重の歴史や文化が展開してきたこと、三重の歴史や文化は自然をベースに生まれできたことが、体感できる展示としています。



- 自然を舞台に歴史や文化、暮らしが展開されたことを、一体的、総合的にとらえるため、一つの資料を自然と歴史・文化の両面から見る手法「共有展示」を取り入れています。

共有展示のイメージ



- 4つの「暮らしと自然」のコーナーには、県民・利用者のみさんから寄せられ「暮らしと自然」に関連した写真資料や情報を反映する「参加する」展示を設け、県民・利用者のみなさんとともに作る展示とします。

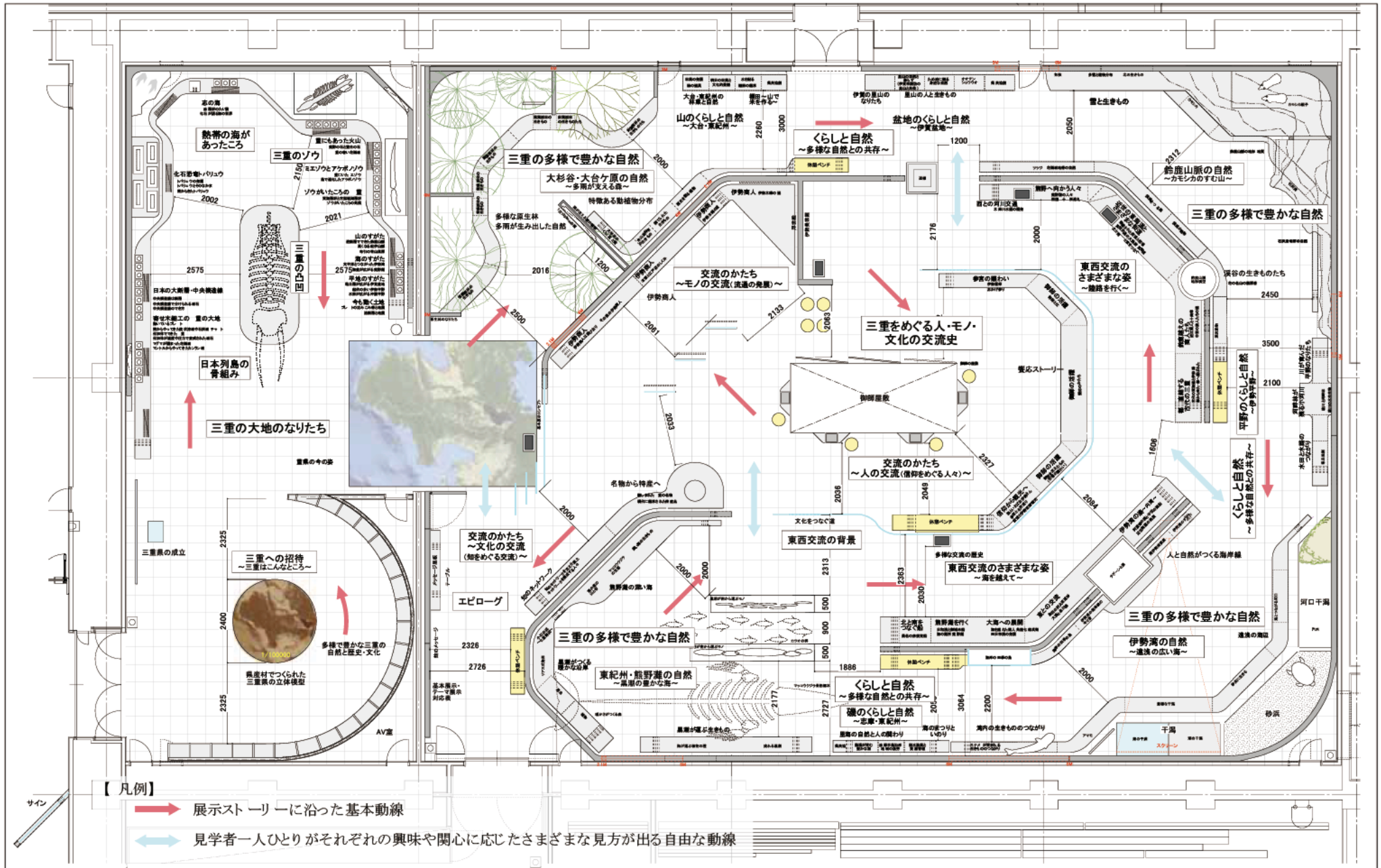
「参加する」展示の展開イメージ



- 展示ストーリーに沿った基本動線を設けますが、見学者一人ひとりが、それぞれの興味や関心に応じたさまざまな見方ができる自由な動線も用意しています。



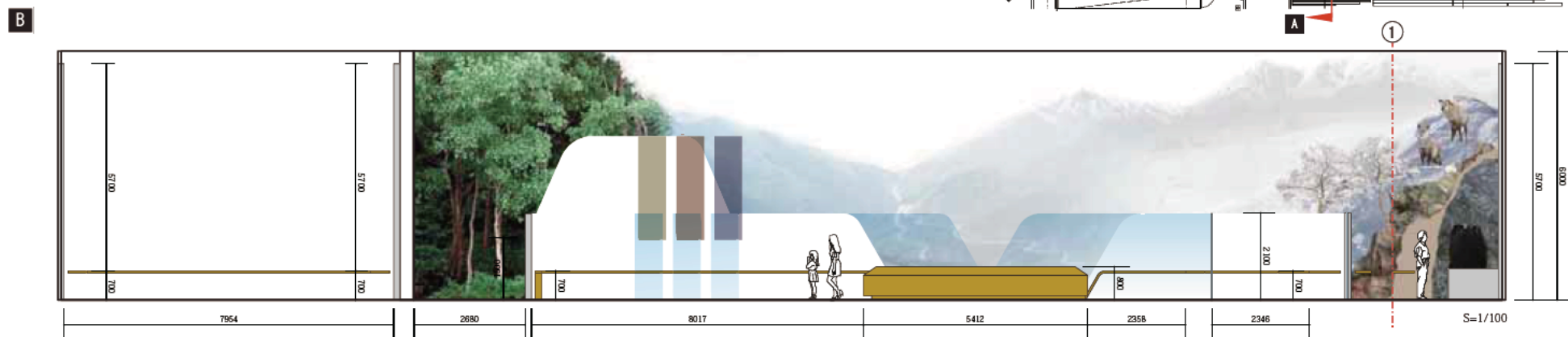
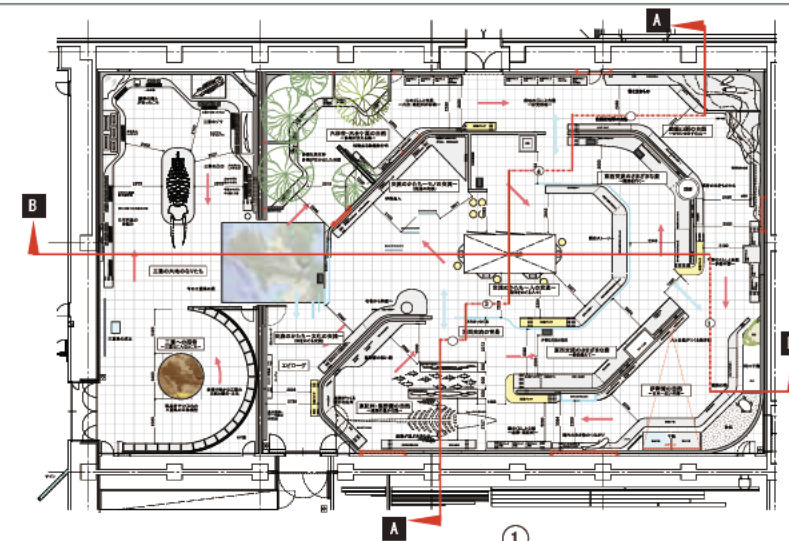
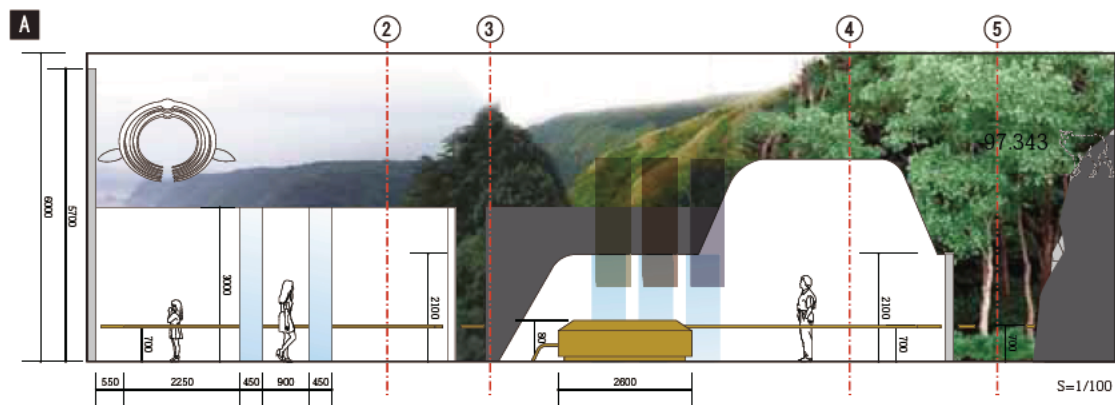
基本展示室 平面図



S=1/100

TOTAL MEDIA DEVELOPMENT PARTNERS COLITA

基本展示室 断面イメージ



■ 展示イメージ



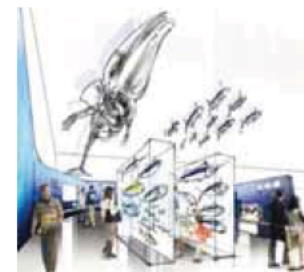
三重の大地のなりたち



大杉谷 大台ヶ原の自然



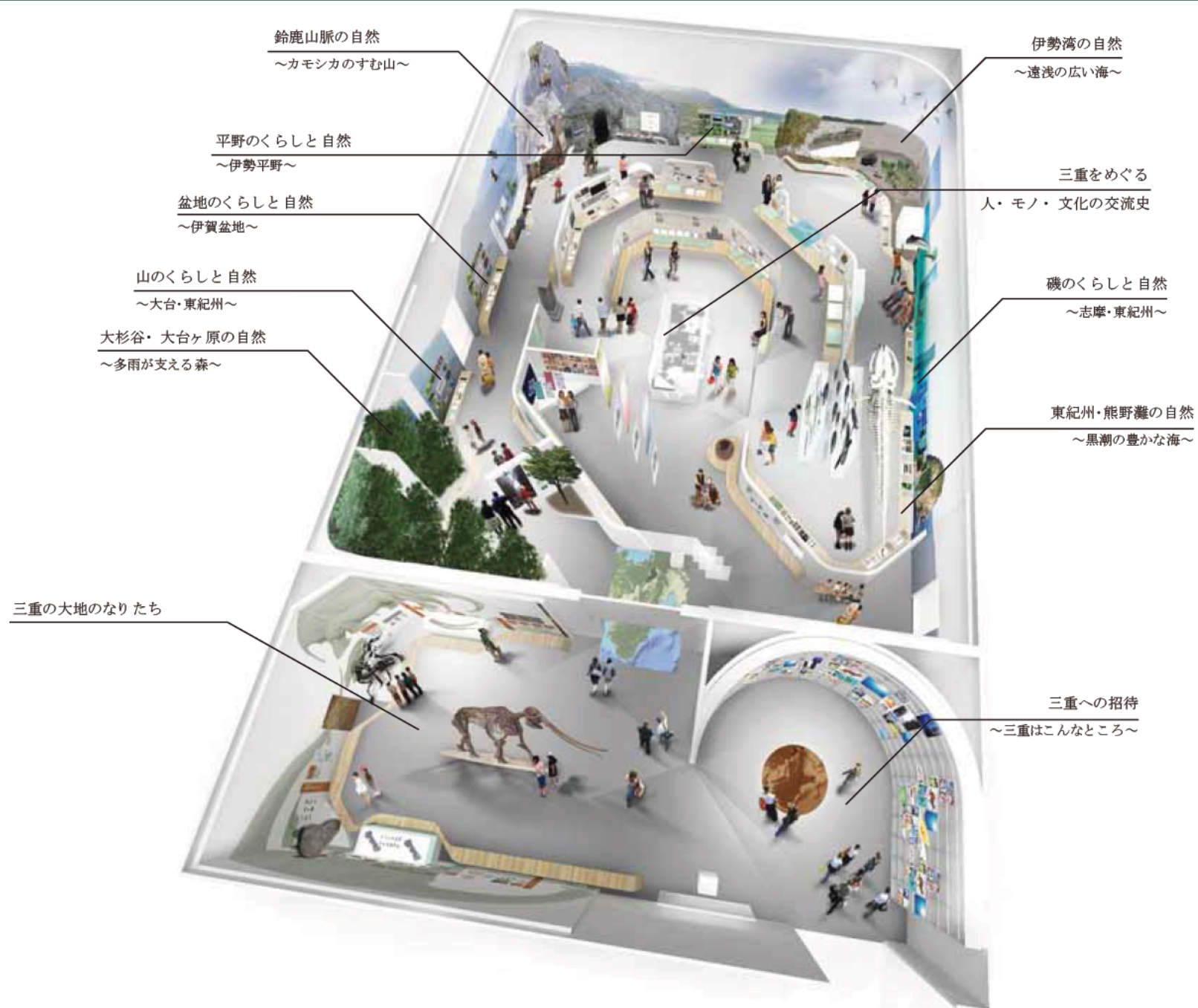
伊勢湾の自然



熊野灘の自然



交流のかたち～モノの交流 流通の発展～



三重の魅力が多角的に伝える可変型の展示室

基本展示室と可変的な複数のテーマ展示室で構成する展示エリアでは、三重の魅力を概観する基本展示と複数のテーマによる大きささまざまな展示などを複合的に展開し、それらが連動することで、三重の多様で豊かな自然と歴史・文化を多角的に紹介し、発信します。

テーマ展示室

交流テーマ展示室1

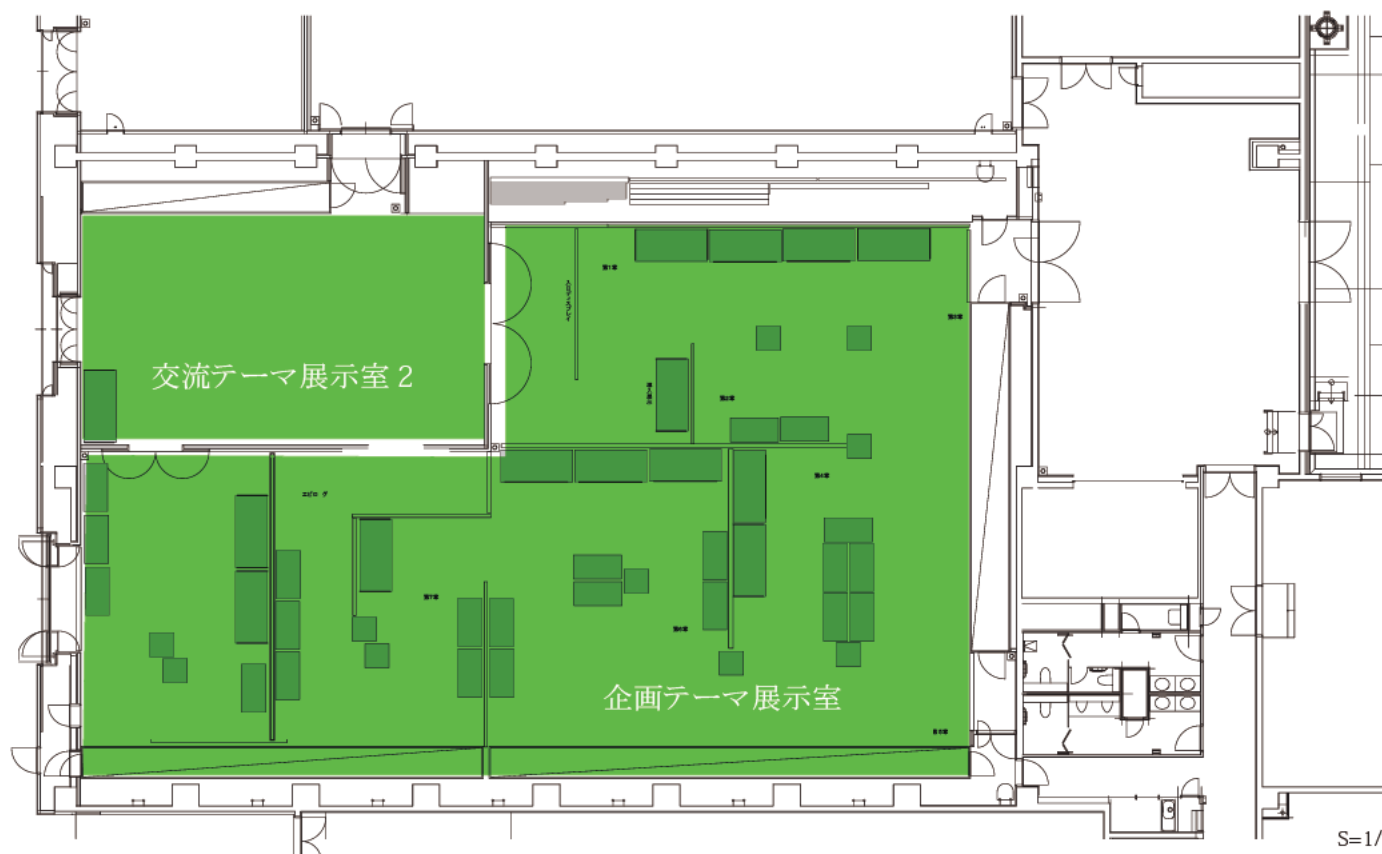
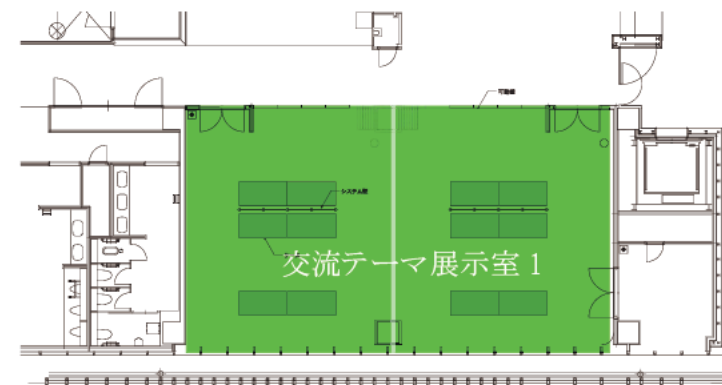
エントランスエリアに隣接する展示室。県民協創交流展などの多様な主体との交流展示や、ワークショップなど、開放性に富み、柔軟に活用できる仕様。

交流テーマ展示室2

交流テーマ展示室1と企画テーマ展示室の中間的な仕様設定の展示室。基本展示室に隣接し、基本展示と連動した展示の展開が可能。

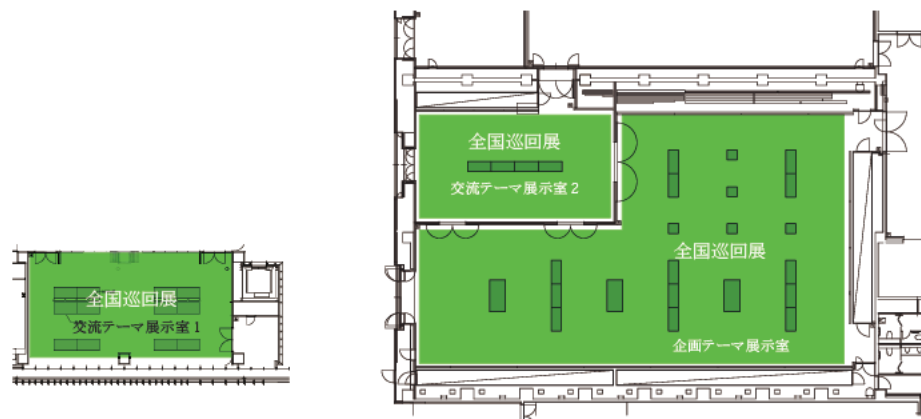
企画テーマ展示室

国宝・重要文化財などの指定文化財の展示にも対応できる展示室。可変型の区画により大きささまざまな規模・内容の展示が可能。



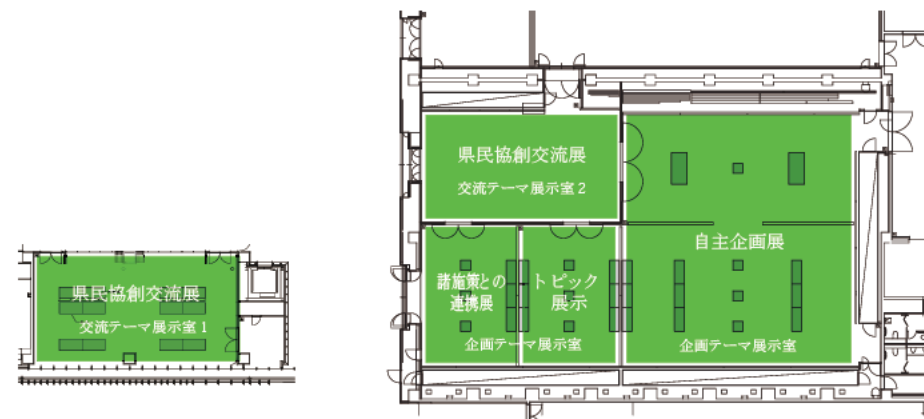
S=1/100

■パターン 1



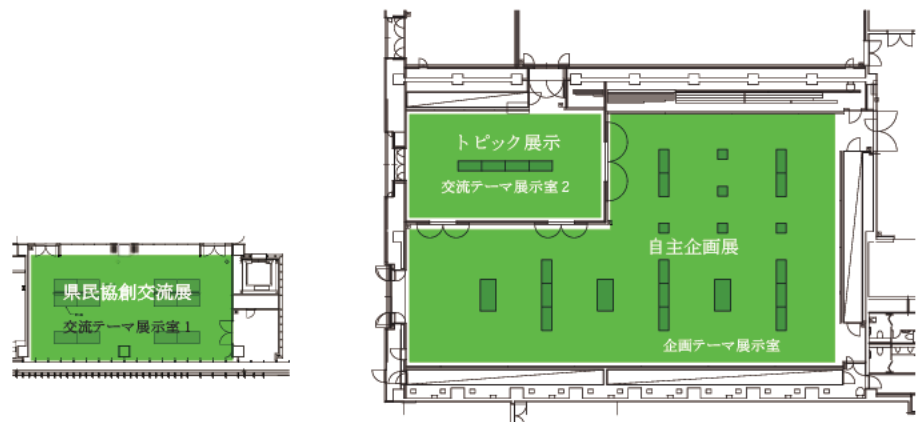
2階・3階のテーマ展示室全体で展開する全国巡回展の展開例。館全体で行う大規模な巡回展が可能です。

■パターン 3



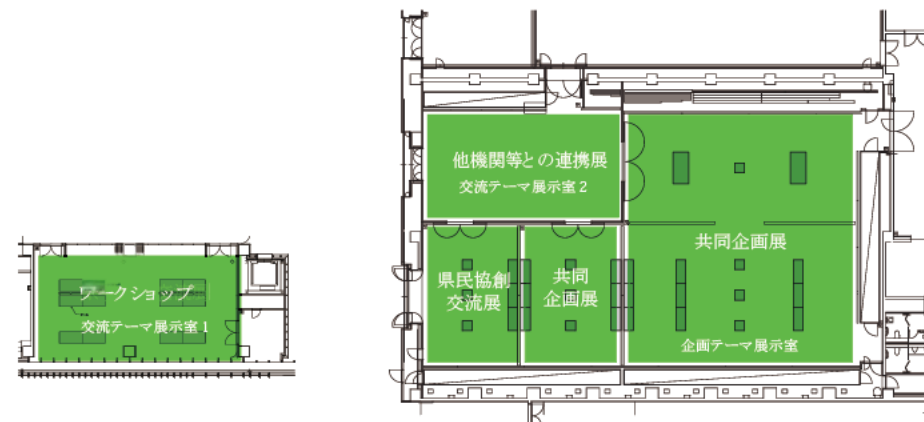
フレキシブルに間仕切ることができるテーマ展示室を活用した例。さまざまな規模の展示を同時開催することが可能です。

■パターン 2



館の自主企画展と連動したトピック展示や県民協創交流展の例。共通のテーマをさまざまな視点や観点でみることができます。

■パターン 4



さまざまな団体や県民と行う連携展の例。幅広い活用が可能な交流テーマ展示室1では、展示だけでなく、ワークショップなども開催できます。

フレキシブルな空間でさまざまな展示を可能にする

基本展示室と連動させ、大規模な全国巡回展や自主企画展、県民との協創交流展などの組み合わせで、多様な三重の魅力を幅広く紹介します。それぞれの展示内容や規模に応じて、大きささまざまな展示空間をつくりだします。3種類の仕様を持つ展示室を効果的に組み合わせ、多様な展示活動を展開します。また、交流テーマ展示室では、展示だけでなく、ワークショップなどの多彩な催しの会場として使用するなど、柔軟な活用を可能とします。

■さまざまな展示の展開例

館独自の展示はもとより、県民・利用者のみなさんや他の博物館、大学など、多様な主体のみなさんとともに、さまざまな展示を展開します。



■テーマ展示室のテーマ例

【企画展示】

従来型の特別展・企画展に相当するもの。調査研究などの成果をベースに三重の自然と歴史・文化や、これらにちなみ幅広い魅力を紹介する「自主企画展」と、全国的な規模で行う「全国巡回展」から構成します。

1. 自主企画展 広さ400～800㎡程度、内容によって変化

- ・ 館独自で企画する規模の大きな展示、トピック展示より大きな規模で展開。
- ・ 年に数回程度開催。
- ・ 基本展示室で紹介する内容をさらに充実・発展させたものとする。最新の研究成果なども交えて展開。

《展示テーマの想定例》〔 〕は分野

- 美し国 三重・三重の至宝-〔 歴史・美術〕
- みんなで作ろう、みんなが楽しむ博物館づくり〔 総合〕
- 自然からの恵み-生態系サービスを考える-〔 自然〕
- 足跡からわかること 総合・自然〕
- ようこそ恐竜ラボへ-化石の謎をときあかす-〔 地学〕

2. 全国巡回展 広さ600～800㎡程度、内容によって変化

- ・ 全国の博物館間のネットワークによって、実行委員会形式などにより、全国的に巡回する展示。
- ・ 新聞社などがスポンサーになって、全国的に巡回する企画展示を誘致。
- ・ 年に数回程度開催。

《展示テーマの想定例》

- 日本で見つかった恐竜たち-大型恐竜大移動の謎を探る-〔 地学〕
- 日本列島にゾウにいたころ〔 地学〕
- 東アジア世界の交流-海の道と日本文化-〔 民俗・歴史〕
- 発掘された日本列島 考古〕



【トピック展示】広さ200㎡程度

基本展示を補完・発展した内容のやや小規模な展示で、いつ来ても何か違う展示（随時展示替え）を開催します。三重の豊かな自然と歴史・文化について、自然系と人文系、または総合系の展示として、四季にちなんだ展示展開や分野別、分類別、地域別など、さまざまな切り口で紹介します。

《総合系トピック展示の想定例》

- 物語のなかの生きものたち
- ウシ・牛・牛乳 干支シリーズ〕
- サクラとその名所
- 陶器に描かれた草花の意匠
- 三重県水産図解と海川のさかなたち

《自然系トピック展示の想定例》

- 化石からさぐる中生代の三重
- ミエゾウとアケボノゾウ（三重にゾウがいたころ）
- 中央構造線ってなんだろう
- 湿地の植物
- 伊勢湾の自然

《人文系トピック展示の想定例》

- 伊賀国の風土と歴史
- 押出仏と鳥居古墳
- 三重をめぐる古文書
- 藩主 文人たちの芸術
- 黒潮に舞う海女



3F 交流テーマ展示室2 企画テーマ展示室



交流テーマ展示室2
企画テーマ展示室

【交流展示】

県民・利用者のみなさんと諸団体などの協創による調査研究成果の展示、県民・利用者のみなさんと諸団体の主体的な活動成果に、博物館が展示技術の支援などを行い実施する「県民協創交流展」をはじめ、三重県博物館協会、県内博物館、大学、地場産業の団体、企業等と連携して実施する「他機関との連携展」、博物館の展示発信機能を生かして、県の諸施策をより効果的に発信することを目的とした「県の諸施策との連携展」など、さまざまな主体とともに行う展示です。

1. 県民協働交流展

（広さ100～400㎡程度、内容によって変化）

- ・ 県民、利用者のみなさんとの協働による調査研究成果の展示活動。
- ・ 県民・利用者のみなさんと諸団体の主体的な活動成果に、博物館が展示技術の支援などを行い実施する展示活動。
- ・ 年に数回程度開催。

《展示テーマの想定例》

- 県民参加型調査展「三重の干潟の今昔-干潟から環境を考える-」〔 自然〕
- 小さなチョウの大きな旅-日本を縦断するチョウたち〔 自然〕
- 地域に残る石仏たち-サポートスタッフとの協働調査から〔 歴史〕
- 三重の軽便鉄道 歴史〕
- 庄屋文書を読み解く 歴史〕



2. 他機関等との連携展

（広さ100～400㎡程度、内容によって変化）

- ・ 博物館、大学、地場産業の団体、企業等と連携して実施する展示。
- ・ 年に数回程度開催。

《展示テーマの想定例》

- 三重の博物館大集合-三重県博物館協会共催展-
- 大学研究室の研究をのぞく-県内大学連携展-
- 三重の生物研究発表展
- 小中高生の発表展-学校との連携展-
- 企業による生物多様性への社会貢献を考える

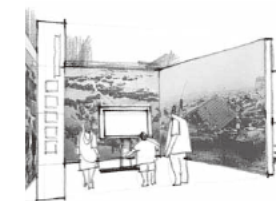
3. 県の諸施策との連携展

（広さ100～200㎡程度、内容によって変化）

- ・ 博物館の展示発信機能を生かして、県の諸施策をより効果的に発信することを目的とした展示。
- ・ 年に数回程度開催。

《展示テーマの想定例》

- 三重の防災-活断層から探る
- 戦争の記憶-過去の経験から平和を考える
- 三重の子育て100年-みんなで支える三重の子育て-
- 観光三重いまむかし



■外構演出の考え方

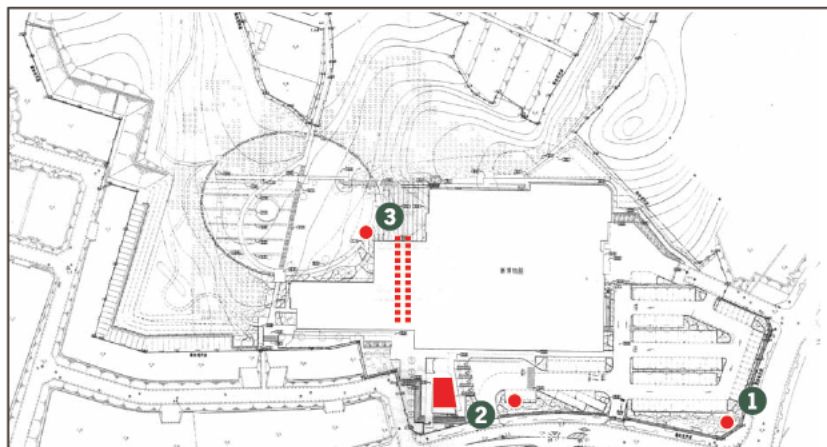
博物館への期待感を高める演出

博物館の催しを紹介する楽しい演出を施した情報掲示や、来館者の期待感を高める館内誘導案内を設置します。

外構や植栽には、県内各地の石材や三重にゆかりのある植物、学習に用いる植物などを配置することで、館内の展示とフィールドとをつなぐとともに、三重の自然と歴史・文化を考えるきっかけの場とします。

演出空間はストーリー性のあるものとし、博物館への期待感を高めるものとします。

■外構



① 情報掲示機能

歩行者等に博物館の存在を知らせ、現在の主な催しなどを紹介する情報掲示案内
場所 交差点の角など

② 館内への誘導機能

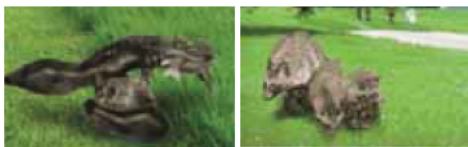
来館者に館内への期待感を高める情報を案内
場所 正面大階段周辺など

③ 親しみやすい演出機能

敷地内各所に三重の魅力や楽しい博物館をイメージする演出を配置
場所 野外学習スペースや交流の広場内、1階ピロティなど



ミュージアムフィールドを紹介するマップ



三重の里山で見られる動物のオブジェなど オオサンショウウオ、タヌキなど

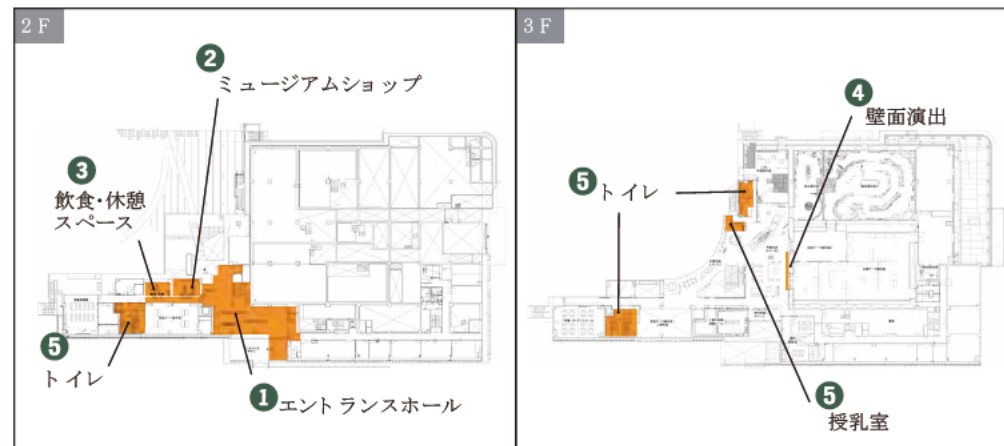
■館内演出の考え方

館内の各所に配置する三重の魅力と楽しさの演出

展示室だけでなく、交流創造エリアをはじめ、さまざまなところに三重の魅力を伝え、地域性を演出する県産材やデザインを積極的に活用します。あわせて、博物館らしさや楽しさ、意外性などを表現する演出や展示情報も各所に配置・紹介することで、気づきや展示資料への興味を呼び起こします。

サインなどを県民・利用者のみなさんと一緒につくる、開館前のイベントやワークショップなども実施します。

■館内



① エントランスホール(2F)

博物館の顔として、ワクワク感 期待感を高めるような演出

② ミュージアムショップ(2F)

博物館の刊行物、自然 歴史探求のための道具類、オリジナル商品、土産物などを販売

③ 飲食・休憩スペース(2F)

テーブルや椅子などにも 三重の魅力と楽しさを演出
オオサンショウウオ飼育水槽も配置

④ 壁面(垂壁、3F)

三重らしさをテーマにした、更新性の高いパナーなど

⑤ トイレ・授乳室(2F・3F)

機能的になりがちなトイレや授乳室にも 三重の魅力と楽しさを演出



学習交流スペースのパナーのイメージ



トイレの演出トイレ内のイメージ

■里山の保全と活用

里山における人と自然のありかたを考える

「里山」は、人と関わりが強い身近な自然で、その生態系は人のくらしによって影響を受けやすいものです。里山は、人と自然の関わり方の歴史と、これからあるべき関係を具体的に教えてくれます。新博物館では、予定地の里山環境を県民・利用者みなさんとともに、自然の恵みを体験できるスペースとして活用することをめざします。そして、人の活動に自然が応える野外展示「里山」を展開して、来館者のみなさんが、環境との関わり方を自分のこととして考えられる展示やプログラムを構成します。

現状（造成前）

敷地のもつ歴史性

志登茂川南岸の丘陵地帯として、かつて人が生活の場として里山を利用した記憶や記録が残る自然環境。

敷地環境の現状（造成前）

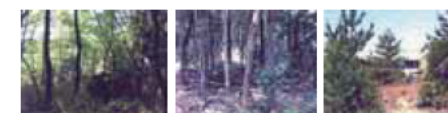
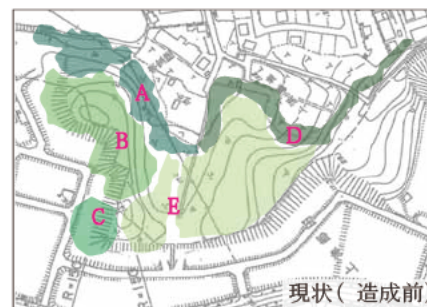
里山に対する人の関わり方が希薄になったため、植物遷移が進み、景観が荒れ、里山としての機能を失っている。

林縁部は、照葉樹林（コジイ・カナメモチ群落）や落葉樹林（アベマキ・ネザサ群落）の良好な樹林が見られる一方で、中央の谷部から北側尾根線にかけてのエリアは、竹林（モウソウ竹群落）が優占し、その生息範囲を拡大して他樹種を枯死させ“竹藪化”しつつありました。

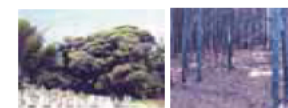
新博物館の「里山」の考え方について

新博物館の考える野外展示の「里山」ゾーンは、予定地の潜在的な自然植生とその歴史性、人の生活と密着してバランスを保ってきた山林という特性があります。その特性を重視した上で、これまで維持してきた生態系サービスを保ち続けながら多様に活用することで、人が里山とともに生きる感覚を共有していく場所と考えています。

新博物館では、野外展示「里山」の活用を通して、「里山」が人の関わりによって常に移り変わることを体験でき、その景観と活用プログラムから、人が自然から持続して恵みを得て生きていくためには、自然といかに関わればよいかを考えるきっかけの場とします。



A. 落葉樹林 B. 照葉樹林 C. アカマツ林



D. 照葉樹林+竹林 E. 竹林

現状（造成前）

活用プログラム（案）

里山の利用促進に向けた長期的な活動プログラムの構築と実行

開館に向けて 環境整備、情報 収集調査

- ・ タケノコ採集による竹の伐採
- ・ 竹の伐採による生物群集構造の変遷を観察し、その効果を明らかにするための生物と物理環境の定期調査と観察会の開催
- ・ 樹木プレート の設置

開館後 里山活用

- ・ ほだ木の採集と植栽栽培
- ・ ドングリ ひろいとドングリ パン作り
- ・ 自然観察会の開催
- ・ 「里山遊び隊」(仮称)の結成

継続的な活用 検証・評価

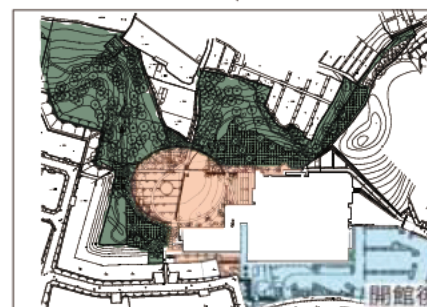
- ・ 予定地の里山の人文・自然的な再評価



- 里山の保全
- 里山の再生
- 交流の広場と有用植物植栽スペース
- 駐車場などの植栽スペース

基本方針

「里山」を生かし、これからの人と自然の持続可能な関係を県民・利用者みなさんとともに創造する



野外展示の活動イメージ

■野外展示

野外ならではの展示や活動を展開

敷地内の里山や交流の広場は、散策などでゆったりと過ごすことができる空間とします。また、館内の展示との関連や周辺の環境に配慮し、三重にゆかりのあるものや地域に由来するもの、学習に用いるものなどの樹種や石材を配置し、野外活動や環境保全活動を展開します。

里山

里山における人と自然の持続可能な関わりについて考える場

本来の里山環境を体感できる取組を展開します。
県民・利用者のみなさんとともに里山の保全活動を展開します。

- 里山での自然観察とくらし体験
- 子どもたちが楽しく自然に接することができる活動

交流の広場

さまざまな活動を展開する場

三重を特徴づける植物や岩石を配置し、紹介します。広々とした心地よい広場で休憩を楽しむほか、さまざまな博物館活動や季節のイベントなどにも活用できます。

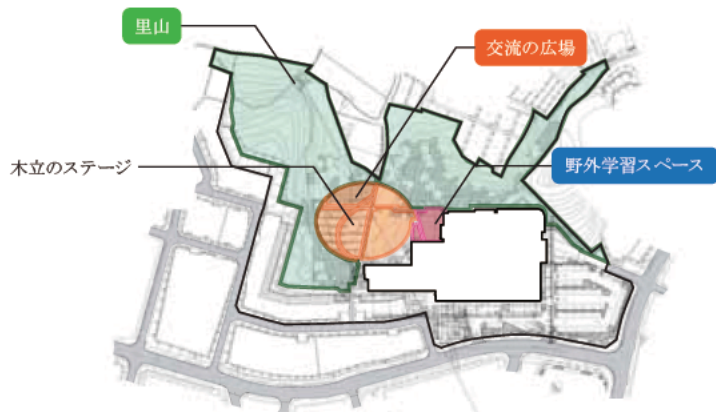
- 薬用や素材として利用される有用植物や、三重にかかわる岩石や植物などを解説プレートやリーフレットで紹介
- 木立のステージを活用した季節のイベントを開催

野外学習スペース

楽しいオブジェを配置し、野外での活動を展開する場

建物に近接し、テントや水場を備える自然に馴染んだスペースとして、さまざまな野外展示やイベントを展開する場とします。

- 親しみやすく楽しいオブジェなども配置し、さまざまな野外活動を展開



■アウトリーチ活動

博物館との出会いや連携の場を県内各地で展開

移動展示やフィールドワークなどのアウトリーチ活動を、県内各地で展開すると同時に、活動先との連携を積極的に展開することで、博物館の活動を館外に広げます。

移動展示

館内での基本展示や自主企画展示・トピック展示などを、県内各地でも行うことにより、博物館への興味・関心を深めます。



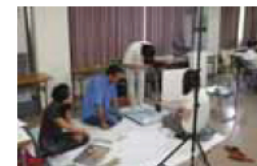
学校連携

学校カリキュラムに沿った貸し出し用資料や、活用の手引きを作成するとともに、実践事例を蓄積します。また、児童・生徒や教員とともに調査研究活動を行い、その成果を地域での展示活動等で発信します。



地域連携

地域の博物館との連携展や諸団体との地域共同調査研究、研究発表、展示などの発信活動を地域で展開します。

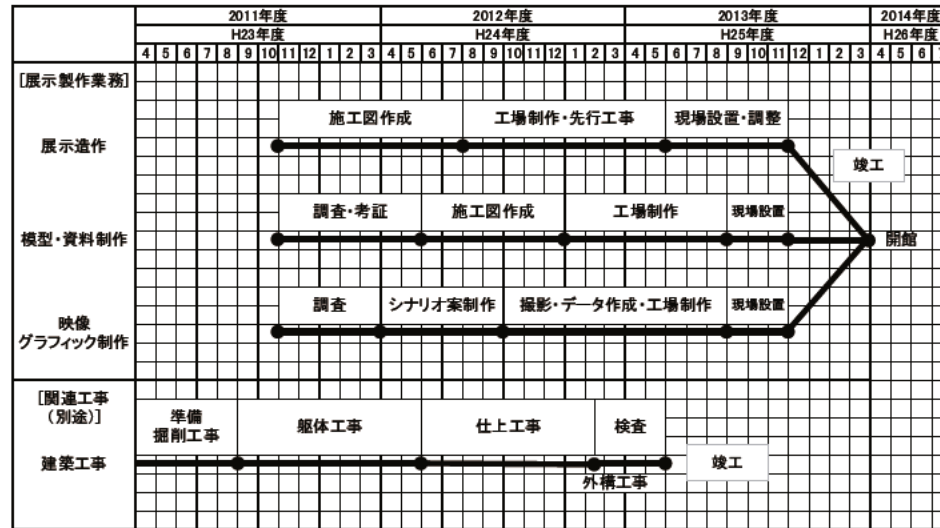


県内各地での講座・フィールドワーク

館内では行うことができない講座や自然観察などを県内各地で行い、地域の魅力の再発見につなげます。



工程計画



制作・施工費 概算

I. 直接工事費		< 1,078,435,000 >
1. エントランスエリア		(17,501,000)
エントランスホール／飲食 休憩スペース／ミュージアムショップ		
造作工事	1式	494,000
什器・備品	1式	5,663,000
映像音響機器	1式	711,000
模型・造形	1式	7,494,000
サイン・グラフィック	1式	2,623,000
映像音響ソフト	1式	516,000
2. 交流創造エリア		(277,871,000)
学習交流スペース／書庫／三重の実物図鑑ルーム／資料閲覧室／県民活動室		
実験実習室／研修・ガイダンスルーム／こども体験展示室		
造作工事	1式	23,228,000
什器・備品	1式	141,470,000
電気・照明	1式	7,536,000
映像音響機器	1式	16,801,000
模型・造形・レプリカ	1式	74,613,000
サイン・グラフィック	1式	8,643,000
映像音響ソフト	1式	1,416,000
教材	1式	4,164,000
3. 展示エリア(テーマ展示室)		(160,127,000)
交流テマ展示室1／交流テマ展示室2／企画テマ展示室		
造作工事	1式	13,064,000
什器・備品	1式	143,067,000
電気・照明	1式	3,996,000
4. 展示エリア(基本展示)		(516,360,000)
造作工事	1式	41,277,000
什器・備品	1式	36,200,000
電気・照明	1式	15,920,000
映像音響機器	1式	24,740,000
模型・造形	1式	256,910,000
サイン・グラフィック	1式	44,590,000
映像音響ソフト	1式	96,590,000
教材	1式	133,000
5. 野外展示・共用部展示演出・アウトリーチ		(106,576,000)
造作工事	1式	14,948,000
什器・備品	1式	13,980,000
電気・照明	1式	666,000
映像・音響機器	1式	22,610,000
模型・造形	1式	13,989,000
サイン・グラフィック	1式	10,740,000
映像音響ソフト	1式	20,900,000
教材	1式	8,743,000
II. 管理費等		< 216,803,095 >
1. 共通仮設費		(22,843,095)
2. 制作管理費		(88,100,000)
3. 一般管理費		(105,860,000)
合 計(I+II)		1,295,238,095
展示制作費 合計(税込)		< 1,360,000,000 >